

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2024年6月号)

2024/5/31
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは5月31日（金）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		5月30日現在	6月の予想		(月末値)
USD	ドル・円 (円)	156.82	154.0	～ 161.0 ➡	157.0
	海外勢による円売りフロー継続				
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	1.083	1.07	～ 1.10 ➡	1.08
	ユーロ・円 (円)	169.86	165.0	～ 175.0 ➡	169.6
	ECB追加利下げ観測後退でユーロ高継続か				
GBP	ポンド・ドル (ドル)	1.273	1.25	～ 1.29 ↘	1.27
	ポンド・円 (円)	199.67	194.0	～ 203.0 ➡	199.0
	年内の利下げ観測維持も、ポンド円は底堅い展開が継続か				
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	104.02	102.0	～ 106.0 ➡	105.0
	NZドル・円 (円)	95.87	93.0	～ 98.0 ➡	95.0
	中銀のタカ派姿勢からオセアニア通貨高止まり				
株式相場	日経平均 (円)	38,054	37,000	～ 41,000 ➡	38,500
	保守的な会社計画を勘案すると、レンジ相場入りと見るのが妥当か				
	NYダウ (ドル)	38,111	37,000	～ 41,000 ➡	39,500
長期金利	AI関連銘柄中心にファンダメンタルズは堅調も、米金利の上昇が重荷で小幅上昇を見込む				
	日本 (%)	1.055	0.95	～ 1.15 ➡	0.850
	追加利上げとQT開始の時期が意識され金利は高止まりか				
	米国 (%)	4.546	4.30	～ 4.80 ➡	4.500
	年内の利下げ回数は1回が妥当か				

◆ 今月の注目ポイント

ECB利下げ開始! ? FRBと日銀は現状維持! ?

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
金融政策	◎	【6日 ECB理事会】ラガルド総裁は5月22日に「インフレの動向が維持されれば、6月利下げの可能性が高い」と述べており、インフレデータの落ち着きを受けてECBは0.25%の利下げに踏み切る公算大。予想通り利下げが実施されるか、そして次の追加利下げはいつあるのか、声明文やラガルド総裁の発言に注目。
	○	【12日 FOMC】5月に公表された米経済指標は弱めの内容が目立ったが、予防的利下げには弱い指標が数回続く必要があるため、6月と7月の利下げの可能性は低い。大統領選前の9月FOMCでの利下げ観測が高まるか、FRBメンバーの金利見通しに注目。
	◎	【14日 日銀金融政策決定会合】4月の決定会合はタカ派色の強い内容となり、円安進行とも相俟って追加利上げの機運が高まった。6月の追加利上げの可能性は低い、7月以降の早期利上げ、あるいは国債買入れ額の縮小（QT）が示唆されるかに注目。

◆ アジア通貨見通し

	5月30日現在	6月の予想		(月末値)
人民元・円	21.62	21.11	～ 22.19 ➡	21.50
バーツ・円	4.269	4.00	～ 4.30 ➡	4.20
ルピア・円	0.964	0.95	～ 1.00 ➡	0.98

◆ 今月の重要日程

3日 (月) 米 5月ISM製造業
5日 (水) 日 4月毎月勤労統計
5日 (水) 米 5月ISM非製造業
6日 (木) 欧 ECB理事会
7日 (金) 米 5月雇用統計
12日 (水) 米 5月CPI

12日 (水) 米 FOMC
14日 (金) 日 日銀金融政策決定会合
18日 (火) 米 5月小売売上高
20日 (木) 英 BOE金融政策委員会
21日 (金) 日 5月CPI
28日 (金) 米 5月個人所得・消費支出

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンズリー & アジア・新興国FXフラッシュ

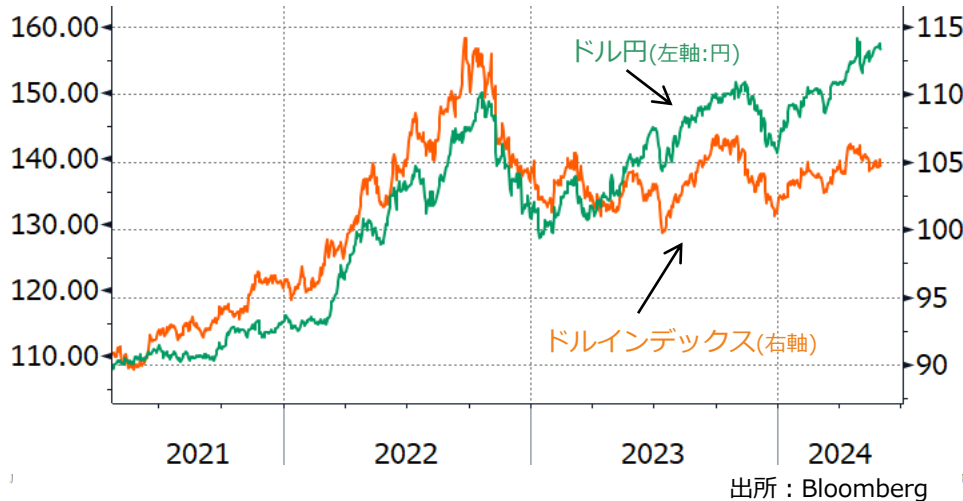
(2024年6月号)

2024/5/31

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し① 為替（ドル・ユーロ）

ドル 円



米ドル円

154.00 – 161.00円

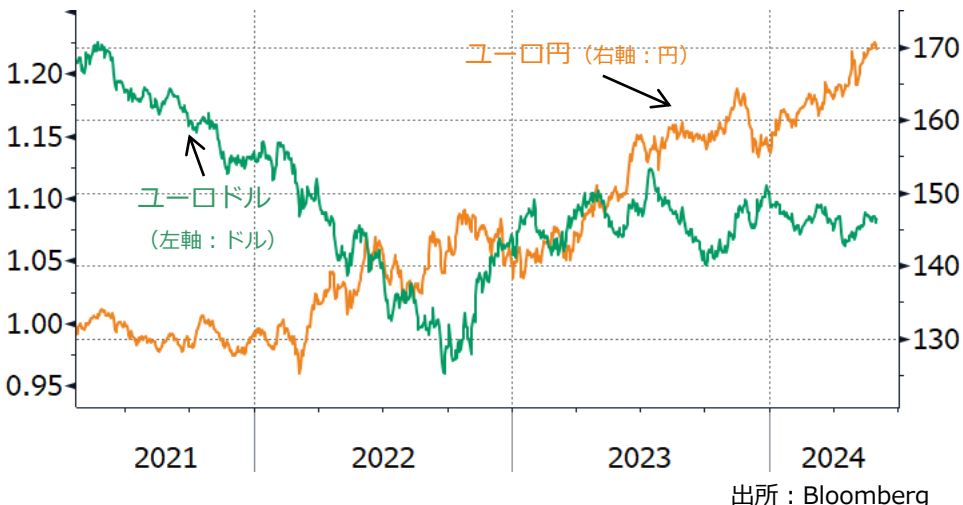
海外勢による円売りフロー継続

5月のドル円相場は157円台で始まると、当局の円買い介入と見られる動きに急落、弱い米雇用統計もあり一時151円台を付けた。しかし、その後はFRB高官のタカ派発言が続いたことやFOMC議事録の内容が想定以上にタカ派だったことなどから、FRB利下げ観測の後ずれとともにドル買い戻しが進み、157円台までじり高となった。

6月のドル円は底堅い展開の継続を見込む。介入警戒感は燦るがイエレン財務長官は「介入は稀であるべき」と否定的立場をG7会合で示していることなどから、実弾介入は多くは実施できない。6月12日のFOMCは現状維持がコンセンサスだが、FRBメンバーの政策金利見通しが示されるため要注意。市場の利下げ後ずれ観測を追認する形となる公算。14日の日銀決定会合は金利据え置きと見ているが、国債買入れの縮小方針は示される可能性があるが、為替相場の反応は一時的か。

6月も日米金利差を背景とした円キャリートレードのフローによりドル高円安の流れは継続する公算が大きい。6月27日に例年よりも早く米大統領選TV討論会が行われる。米大統領選への注目度が一段と高まる中、金融政策やマーケットなどへの言及があるかに注目。

ユーロ



ユーロドル

1.07 – 1.10ドル

ユーロ円

165.00 – 175.00円

ECB追加利下げ観測後退でユーロ高継続か

5月は欧州経済の底入れを示唆する経済指標の公表が相次ぎ、ユーロ買いが優勢となった。また、15日公表の米4月CPIが市場予想通りに鈍化したことを受け、米国の利下げ観測が高まったことでドル売りが強まり、ユーロドルが1.09ドルに近接する水準まで上昇する局面もあった。

6月のユーロも引き続き底堅い展開を見込む。ECBは6月に初回利下げを行う公算が大きい、市場は初回利下げについては既に織り込み済みであり、焦点は次回以降の利下げ時期に移っている。しかし、ラガルド総裁が「事前に特定の金利経路を確約しない」と繰り返し述べているほか、ユーロ圏経済の先行きの強さや底堅い労働市場を背景に年内の複数回の利下げ観測は後退しつつある。こうした中では、米欧金利差が年末にかけてもこれまで想定していたほどには拡大していかないと見方や欧州経済への期待感から、ユーロ高となりやすい状況が継続しそうだ。6日のECB理事会において、今後の追加利下げについて新たな示唆があるか注目したい。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

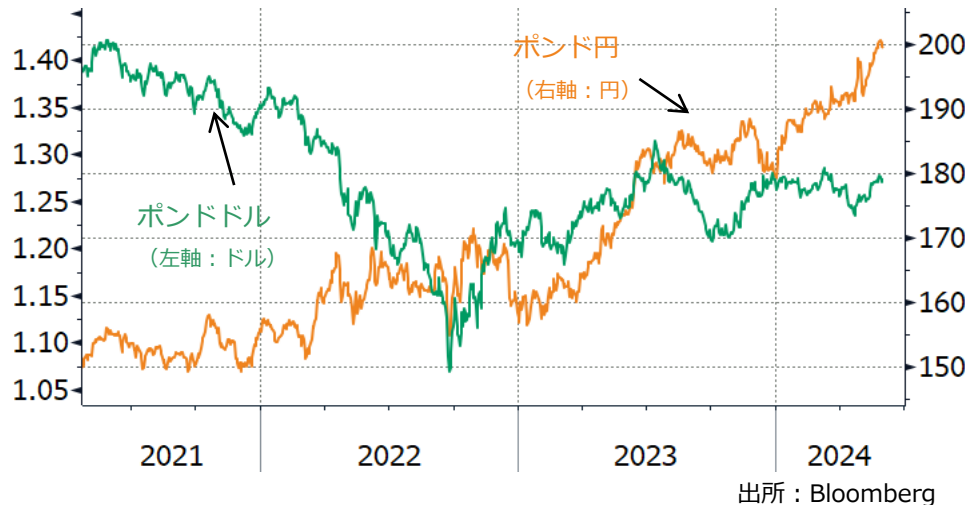
(2024年6月号)

2024/5/31

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し② 為替（ポンド・豪ドル・NZドル）

ポンド



ポンドドル

1.25 – 1.29ドル

ポンド円

194.00 – 203.00円

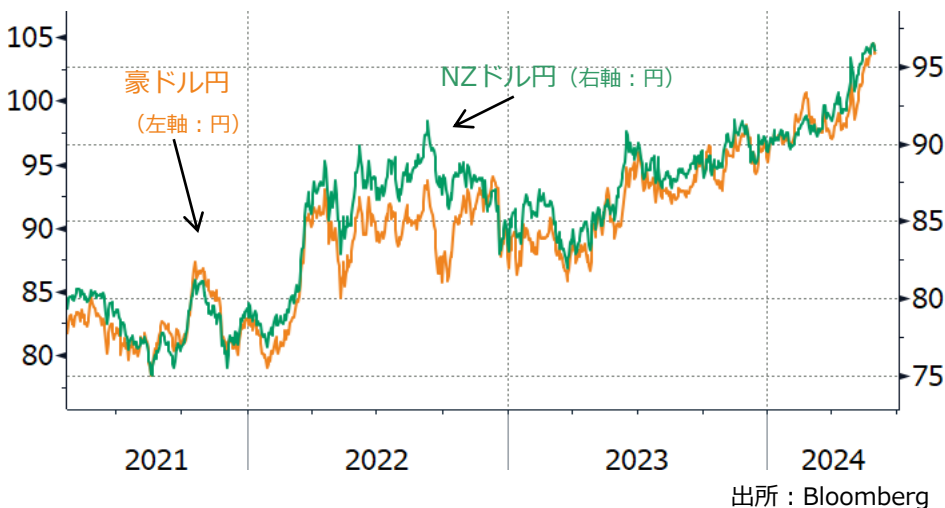
年内の利下げ観測維持も、ポンド円は底堅い展開が継続か

5月のポンドは対ドルで上昇。22日発表のCPIは前月から大幅に伸びが鈍化したものの、英中銀が重視するサービスが僅かな伸び鈍化にとどまったことなどから早期利下げ観測が徐々に後退しポンド買戻しが優勢となった。一方、対円では、金利差を背景とした全般的な円売りが進む中、ポンド円は再び200円台回復となった。

6月のポンドは対ドルでは上値の重い展開、対円では底堅い展開を予想する。5月の金融政策決定会合(MPC)は、利下げ支持が2人に増え、ペイリー総裁コメントもハト派であった。7月に総選挙が実施されることとなり、利下げ開始は8月以降の公算。米国に先んじて利下げする可能性が高く、対ドルで徐々に上値が重くなるだろう。

対円では、円キャリートレードに伴う円売りフローがクロス円に持ち込まれやすくなっており、高金利通貨に対する円売りの流れは継続、ポンド円は底堅い展開の継続を見込む。

豪ドル・NZドル



豪ドル円

102.00 – 106.00円

NZドル円

93.00 – 98.00円

中銀のタカ派姿勢からオセアニア通貨高止まり

5月のオセアニア通貨は対円で上昇した。月初は日銀の為替介入観測により大きく下落して始まったものの、その後は対日金利差、原油や食料をはじめとした資源価格高騰、米国株上昇によるリスクオン相場などを背景に対円で上昇基調が継続。豪ドルは2013年4月以来、NZドルは2007年7月以来の高値をつけた。

6月のオセアニア通貨は、引き続き高値圏で推移すると予想する。5月の豪中銀、NZ中銀の金融政策決定会合では政策金利の据え置きが決定されたが、インフレ率の高止まりなどを背景に追加利上げの可能性が議論されるなどタカ派的なスタンスが明らかとなった。これにより年内の利下げ観測は後退、一方で日銀の利上げパスは緩やかなペースが予想されることから、対日金利差の大きい状況が長期にわたって継続する公算が大きくなっている。為替は高値圏で上値が重なりつつあるが、対日金利差縮小観測の後退が相場を下支えするだろう。さらに、資源価格高騰などの要因が重なれば、もう一段オセアニア通貨高が進行する可能性も十分にあるとみる。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

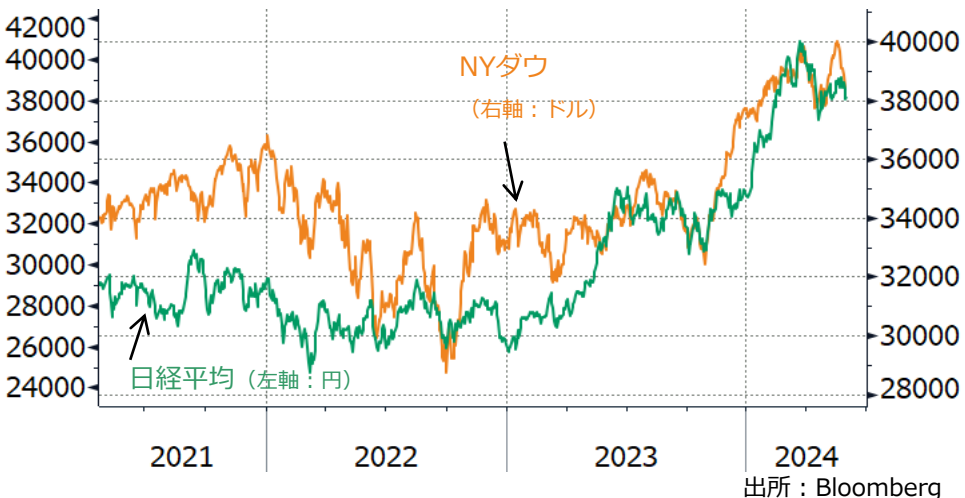
(2024年6月号)

2024/5/31

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

37,000 – 41,000円

保守的な会社計画を勘案すると、レンジ相場入りと見るのが妥当か

3月決算企業では本決算が発表された。実績値はコンセンサスを上回って着地するなどまずまずであったが、来期見通しについて保守的な見通しが相次ぎ、TOPIX採用企業全体では、コンセンサスを8%程度下回る結果となった。例年、会社計画は保守的に公表されるため、年央以降、外需銘柄を中心に上方修正が進むことを見込むが、現時点で積極的に上値を追う材料とはなり難い。38,500円程度を中心にレンジでの推移となろう。

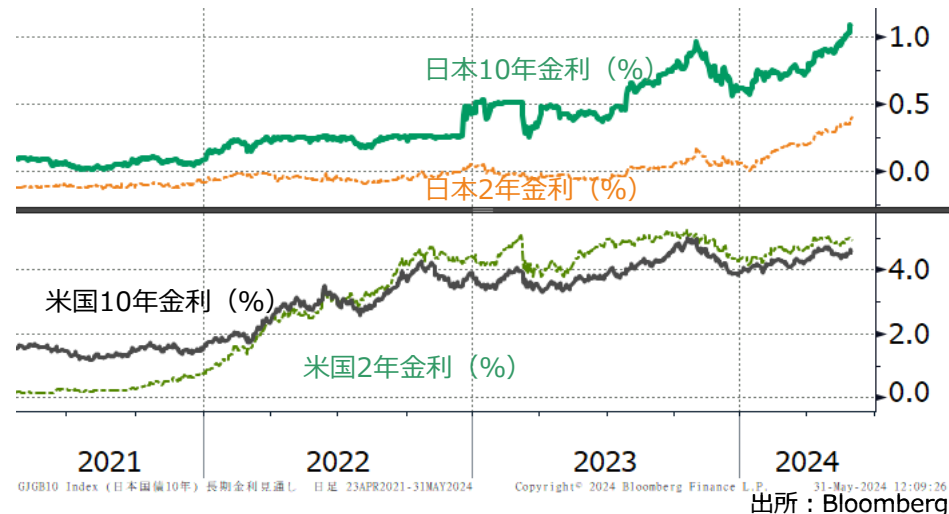
NYダウ

37,000 – 41,000ドル

AI関連銘柄中心にファンダメンタルズは堅調も、米金利の上昇が重荷で小幅上昇を見込む

市場が最も注目していたイベントの一つであるエスビディアの決算は無事通過した。着地、見通し共にコンセンサスを上回る良好な決算であった。これをきっかけに、同社を中心にAI関連銘柄は大きく上昇したものの、一方で堅調な米経済を背景にFRBの利下げ開始時期の後ずれが意識され、米国株全体としては上値の重い展開が続いている。もっとも、予想EPSは年初以降一貫して上方修正が継続しており、悪材料の織り込みが終われば、徐々に上昇基調へ転じよう

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

0.95 – 1.15%

追加利上げとQT開始の時期が意識され金利は高止まりか

5月13日の5-10年の買入れオペが予想外に減額され、24日の1-3年の買入れオペで札割れが生じたことから、市場では日銀が早期にQTに踏み切るとの観測が強まっている。また、6月5日には春闘の結果が反映され始める4月分の毎月勤労統計が公表され、賃金の伸びが堅調であれば追加利上げの時期も意識され始める。これらの金融政策に関する思惑が根強いことによって、10年国債金利は概ね1%程度で高止まりしていくだろう。

米国債10年

4.30 – 4.80%

年内の利下げ回数は1回が妥当か

堅調な経済指標やFRB高官の発言を勘案すると、6月あるいは7月に利下げに踏み切る可能性は低い。この場合、次のFOMCは9月だが、大統領選前のスタンス変更は前例がなく、とすれば、年内の利下げチャンスは大統領選後の1回との見方が妥当となる。米10年金利の妥当値は4.2%前後とみているが、足元でボラタイルな相場が続いていることによるスクプレミアム上昇を考慮すると、妥当値より高い4.4~4.5%程度の水準を中心に高止まりする可能性が高い。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ

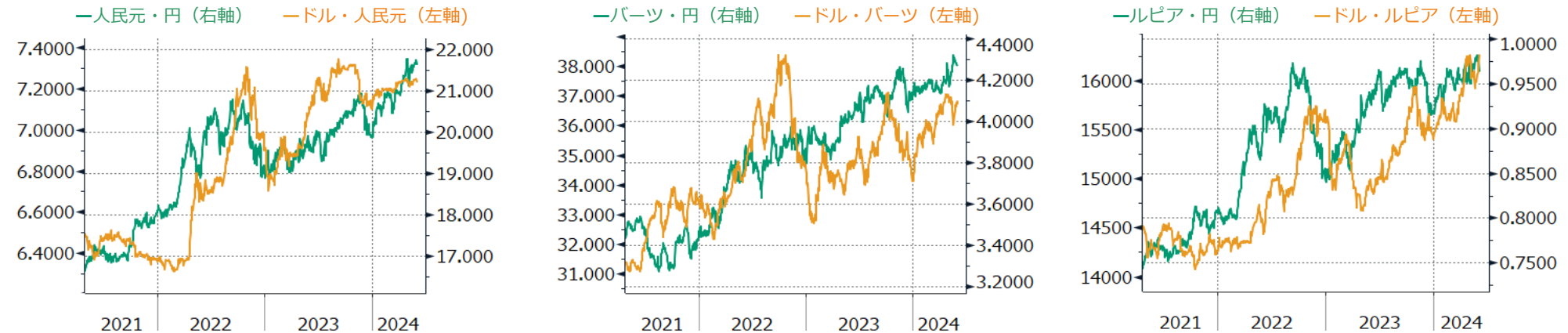
(2024年6月号)

2024/5/31

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨（アジア）

		5/30	5月の相場推移	6月の予想	見通し
中国	人民元/円	21.60	21.20 ~ 21.72	21.30 ~ 22.10	市場は中国政府による不動産対策を好感したが結局は米金融政策次第 5月には中国政府が不動産市場対策として住宅販売在庫の買い取り策を公表し、ドル人民元が下落する場面もあったものの、市場の好感は一時的なものに留まった。主要な経済指標からは中国景気の底入れの兆しが見えているものの、人民元の動向は引き続き米国の金融政策により強く影響されている。FRBによる利下げの時期が後ずれするとの見方が市場では再び強まっており、米金利の高止まりが続く中で、ドル/人民元は下落しにくい状況が続くそう。
	ドル/人民元	7.25	7.16 ~ 7.26	7.20 ~ 7.30	
タイ	バーツ/円	4.264	4.14~4.34	4.10~4.30	タイ中央銀行は金融政策転換の可能性を示唆も、一進一退での推移を予想 アリサラ・マハサンタナ副総裁は経済とインフレ見通しの変化に応じて金利を調整する可能性があることと述べたことが報じられた。足元でタイ経済は中央銀行の当初の予想よりも好調に推移していることが背景にある。もっとも、自国通貨安への懸念からFRBより前に利下げには転じ辛いとの従来の見方に変更はない。6月も米金利は高止まりする中で、両国金利差は横ばいとなり、ドル/バーツは一進一退で推移しよう。
	ドル/バーツ	36.71	35.80~37.24	35.5~38.0	
インド	100ルピー/円	0.962	0.94~0.98	0.95~1.00	4月のサプライズ利上げでルピアへの圧力は一服 4月の中銀政策決定会合にてサプライズ的に利上げが決定されてからは、それまでのルピア安トレンドに変化の兆しも、米金利上昇から5月のドルルピアは月初比横ばいで着地。米金利高止まりの状況が続く限りは明確なルピア高への転換とはならず、一進一退だがやルピアの強含みが期待される、といったような展開が予想される。
	ドル/ルピア	16,235	15,900~16,270	15,700~16,400	



◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年6月号)

2024/5/31
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 年間為替見通し

		2024年			2025年	ポイント
		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
ドル円	レンジ	151~161	147~162	145~160	140~155	日米金利差は縮まらずドル円は底堅い展開が目先は続くが、日銀の追加利上げやFRB利下げ観測が強まる秋ごろから徐々に上値の重い展開に。
	期末値	157	152	150	145	
ユーロドル	レンジ	1.05 ~ 1.10	1.00 ~ 1.10	0.97 ~ 1.07	1.00 ~ 1.10	サービスインフレ低下兆候が見え、ECBは6月から利下げへ。しかし、堅調な米経済も意識され利下げペースは緩やかなものになる。米国対比で利下げ開始が早いことから上値は重い、利下げで景気が順調となれば、底堅さを取り戻す。対円では日銀が早期利上げに踏み切れば、徐々に円高ヘトレンド変化も。
	期末値	1.08	1.06	1.03	1.05	
ユーロ円	レンジ	162 ~ 175	150 ~ 170	145 ~ 165	145 ~ 165	BOEの年内利下げ観測が台頭するも、対円では日銀利上げペースは緩やかとの思惑から日英金利差はあまり縮まらず、ポンド円の下落スピードは緩やかに。
	期末値	170	162	155	153	
ポンドドル	レンジ	1.23~1.29	1.19~1.31	1.17~1.29	1.20~1.32	中国当局は通貨価値防衛から景気浮揚へと軸足を移しつつあり、人民元安を容認する姿勢を示している。景気支援策や不動産市場支援策による中国経済の回復はありながらも、ドル人民元が下落するのはFRBが利下げを開始してからになる。
	期末値	1.27	1.25	1.22	1.25	
ポンド円	レンジ	190~203	180~200	175~195	171~191	資源価格の上昇やリスク選好の動きから底堅く、豪中銀の利下げ開始はFEDよりもさらに遅れる見通しに変化。現在の高値圏が長期化する可能性が高まっている。
	期末値	199	190	185	181	
ドル人民元	レンジ	7.15 ~ 7.30	7.20 ~ 7.40	7.10 ~ 7.30	6.95 ~ 7.15	観光業の回復、景気支援策から底堅く推移するが、日銀政策修正の思惑で徐々に下落へ。
	期末値	7.25	7.30	7.15	7.00	
人民元円	レンジ	21.10 ~ 22.50	20.70 ~ 21.50	20.60 ~ 21.30	20.40 ~ 21.10	
	期末値	21.50	20.82	20.98	20.71	
豪ドル円	レンジ	98.00~106.00	98.00~106.00	98.00~106.00	96.00~104.00	
	期末値	104.00	102.00	102.00	100.00	
タイバーツ円	レンジ	3.50~4.50	3.50~4.50	3.70~4.80	3.70~4.80	
	期末値	4.20	4.20	4.35	4.35	

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

6

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年6月号)

2024/5/31

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
6/3(月)	1-3月期法人企業統計調査	5月ISM製造業景況指数	(中) 5月製造業PMI
6/4(火)	10年債入札	4月製造業受注	
6/5(水)	4月毎月勤労統計 (速報)	5月ADP雇用統計	
		5月ISM非製造業景況指数	
6/6(木)	30年債入札	4月貿易収支	(欧) ECB定例理事会
			(中) 5月貿易統計
6/7(金)	4月家計調査	5月雇用統計	
6/10(月)	1-3月期GDP (二次速報値)	3年債入札	
	5月景気ウォッチャー調査		
6/11(火)		10年債入札	
6/12(水)	5月企業物価指数	5月CPI	(中) 5月CPI
		FOMC (結果発表)	
6/13(木)		30年債入札	
		5月PPI	
6/14(金)	植田日銀総裁定例会見		



	日本	米国	その他
6/17(月)	4月機械受注	6月NY連銀製造業景況指数	(中) 5月生産・小売・投資
6/18(火)		20年債入札	(豪) 準備銀行理事会
		5月小売売上高	(独) 6月ZEW景況指数
6/19(水)	5月貿易統計	(奴隷解放記念日)	
	日銀金融政策決定会合議事要旨 (4/25~26開催分)		
6/20(木)	5年債入札	5月住宅着工・許可件数	(英) BOE金融政策委員会
		6月フィラデルフィア連銀製造業 景況指数	
6/21(金)	5月消費者物価指数	5月中古住宅販売	(欧) 6月PMI (速報値)
6/24(月)			(独) 6月IFO企業景況感指数
6/25(火)	20年債入札	2年債入札	
		6月消費者信頼感指数	
6/26(水)		5月新築住宅販売	
		5年債入札	
6/27(木)	2年債入札	1-3月期GDP (確定値)	
		7年債入札	
6/28(金)	5月鉱工業生産	5月個人所得・消費支出	
	5月住宅着工件数		
	5月労働力調査		
6/30(日)			(中) 6月PMI

© 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年6月号)

2024/5/31

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【4/26～5/9】

◎ 17 地域GDP が全国平均超え、沿海部で高い傾向

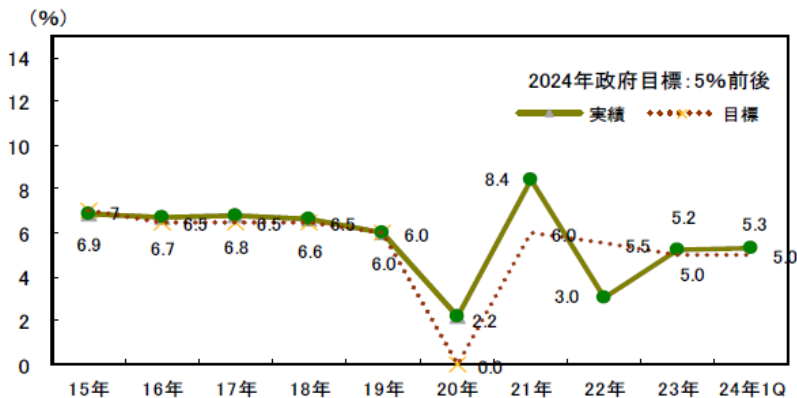
中国文化観光省によると、労働節連休（5月1-5日）に国内を旅行した人の数は2億9,500万人（延べ人数、以下同）で、前年の同連休（4月29日-5月3日）を7.6%上回った。旅行消費は1,669億元で、前年の同連休から12.7%増。食をテーマにした旅行が流行していることから、観光関連業界の中でも飲食業界がとりわけ大きな恩恵を受けた。海外旅行は回復傾向が目立ってきた。国家移民管理局によると、労働節連休の本土出入境者数は前年同連休比で35.1%増の847万人。中国人の旅行に関する興味の対象が国内から国外に徐々に戻っている可能性がある。

【4/26～5/9】

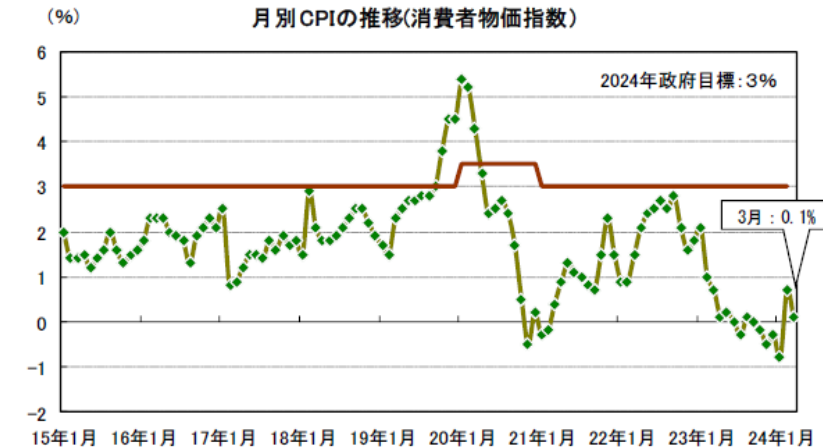
◎ 労働節の国内旅行者8%増、飲食が恩恵

中国文化観光省によると、労働節連休（5月1-5日）に国内を旅行した人の数は2億9,500万人（延べ人数、以下同）で、前年の同連休（4月29日-5月3日）を7.6%上回った。旅行消費は1,669億元で、前年の同連休から12.7%増。食をテーマにした旅行が流行していることから、観光関連業界の中でも飲食業界がとりわけ大きな恩恵を受けた。海外旅行は回復傾向が目立ってきた。国家移民管理局によると、労働節連休の本土出入境者数は前年同連休比で35.1%増の847万人。中国人の旅行に関する興味の対象が国内から国外に徐々に戻っている可能性がある。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2024年6月号)

2024/5/31

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【5/10～5/16】

◎ 7 割弱が今年国内の出張予算拡大、海外からも増加

中国の出張管理会社（TMC）大手が先週発表した国内企業へのアンケートによると、2024 年に国内出張の予算を増やすと答えた企業の比率は66.0%だった。業種別に「運送・倉庫」が最も高い84.7%。中国政府がビザなしでの訪問を受け入れる国を増やしていることで、海外から中国を訪れる出張者も増える見通し。米グローバルビジネストラベル協会によると、中国での出張者の消費は23 年に3,608 億ドルで、国別の消費額で世界 1 位に返った。出張者の増加が国内消費を押し上げると見られる。

◎ 日系の投資意欲小幅に改善、「重要な市場」変わらず

中国に進出している日系企業等で作る中国日本商会在14 日発表した在中国の日本企業の景況感に関するアンケート結果によると、2024 年の投資額を増加または維持するとの回答は56%で、24 年1 月に発表した前回調査から3 %上がった。中国市場の競争が激しくなる中で、「市場の変化する方向に研究開発体制で先手を打って投資しようという企業が多い」と指摘した。また、中国の事業環境について、「満足」と「非常に満足」は合わせて57 %で、前期比3%上がった。中国は日系企業にとって重要な市場であるとする認識は変わりなかった。一方で、2024 年の景気見通しについて、「悪化」と「やや悪化」との回答は50%となり、前回調査から11%上がった。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2023/6	2023/7	2023/8	2023/9	2023/10	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2	2024/3	2024/4
実質GDP成長率	%	6.3	-	-	4.9	-	-	5.2	-	-	5.3	-
消費者物価上昇率	%	0	-0.3	0.1	0	-0.2	-0.5	-0.3	-0.8	0.7	0.1	0.3
都市部調査失業率	%	5.2	5.3	5.2	5.0	5.0	5.0	5.1	5.2	5.3	5.2	5.0
輸出額	10億ドル	283.4	280.8	283.8	296.5	274.2	292.6	303.3	307.5	220.0	279.7	292.5
輸入額	10億ドル	213.8	201.4	216.6	221.3	218.3	223.6	228.5	222.1	180.6	221.1	220.1
経常収支	100万ドル	136,017	-	-	196,796	-	-	252,996	-	-	39,200	-
外貨準備高	10億ドル	3,193.0	3,204.3	3,160.1	3,115.1	3,101.2	3,171.8	3,238.0	3,219.3	3,225.8	3,245.7	3,200.8
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.16	7.19	7.25	7.30	7.31	7.22	7.14	7.17	7.19	7.20	7.24

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年6月号)

2024/5/31

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○2024年、中国若者の生活悲惨ランキング

中国では、若者の失業率が高止まりし、就職難が社会問題になっています。労働節には観光が人気である一方、ネットでは若者の間で失業による生活の悲惨な状況をランキングし、現在話題になっています。ランキング内容を以下の通り整理しました。

あなたは悲しむ必要はありません、もっと惨めな人がいます。

2024年、中国若者の生活悲惨ランキング

- 第六位 仕事が見つからない。
- 第五位 仕事が見つからない。貯金がない。
- 第四位 仕事が見つからない。貯金がない。住宅ローンがある。
- 第三位 仕事が見つからない。貯金がない。住宅ローンがある。子供を育てる必要がある。
- 第二位 仕事が見つからない。貯金がない。住宅ローンがある。子供を育てる必要がある。プラス住宅購入の頭金は借金で支払った。

これは既に非常に惨めな状況ですね。でももっと悲惨な状況があります。

- 第一位 仕事が見つからない。貯金がない。住宅ローンがある。子供を育てる必要がある。プラス住宅購入の頭金は借金で支払った。また頭金借金の返済が促されている！

これは本当に生活ができない窮境ですね。

失業は若者の間で絶望感を広げていますが、今後の就職環境は更に厳しいとの話がネットで流れています。経済不況で若者は仕事に対する考え方も変わってきています。

○中国、若者の就職観念

中国の経済低迷を背景に、雇用情勢が厳しくなり、仕事への活力は「内巻（過剰競争）」に取って代わられました。若者の就職観念も変化しています。

第一財経が発表した「2023年職場生態調査」では、2023年に職場で発生した変化について「解雇」は9.47%、「仕事が見つからない」は10.04%、「減給」は12.22%、いずれも2022年より増えたとされました。また、現在の就職難よりも将来の就職環境がますます難しくなると心配している人は55.97%に達しています。

このような状況下、限りある雇用機会をめぐる競争が激しくなっています。

現在、リストラが少なく、給料が安定している国家機関や国有企業等が過熱しています。今年公務員試験の平均倍率は77倍で、最も競争が激しい職種の倍率は3,572倍に達しています。

また、「内巻（過剰競争）」に疲れ、仕事の意欲が減退し、ゆとりのあるライフスタイルを送ろうとする若者が増えています。同調査では、就活で重視する要素は何かとの質問も実施しました。1位は「給料・福利」（66%）、2位は「仕事と生活のバランス」（54.83%）、3位は「仕事の安定性」（43.94%）です。働く意味と目的という質問で、「生活を維持する手段」（78.50%）、「自己価値実現のルート」（14.02%）、「夢を実現するルート」（2.46%）と回答しました。

現代若者の多くはもう夢のような仕事に憧れていません。

ただ給料が安すぎず、業務内容が疲れすぎず、自分の権利を主張することに罪悪感がない仕事がしたいのです。今年わざと「みすばらしい服装（gross outfits）」で出勤する文化が流行していることも、若者の会社への失望感を反映しています。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2024年6月号)

2024/5/31
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向 りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆ 2024年4月CPI、7カ月ぶりのプラス

タイ商務省が発表した2024年4月の一般消費者物価指数（CPI）の平均値は、前年同月比0.19%増と、7カ月ぶりプラスに転じた。物価上昇の理由として、燃料が国際相場に従って値上がりしたほか、野菜・果物は猛暑による出荷量の減少で価格が上昇したことが挙げられる。分野別では、食品・飲料が前年同月比0.28%増、非食品が同0.12%増とそれぞれ上昇した。2024年1～4月のCPIは前年同期比0.55%下落となった。

◆ タイ中央銀行、政策金利を据え置き

タイ中央銀行は4月10日、2024年2月の会合に続いて3会合連続で政策金利（翌日物レポ金利）を2.50%に据え置くことを決定した。

◆ 2024年3月の輸出額、8カ月ぶりのマイナス

タイ商務省によると、2024年3月の輸出額は前年同月比10.9%減の249億6,055万米ドルと、8カ月ぶりのマイナスを記録した。農産物・加工品の輸出は前年同月5.1%減、主要

工業製品は同12.3%減とそれぞれ落ち込んだ。前年同月の水準が高かった反動や、世界的な景気減速等が輸出減少の理由。減少した品目は、自動車・同部品（同12.4%減）、コンピューター・同部品（同11.8%減）、半導体・トランジスタ・ダイオード（同16.1%減）、ハードディスク駆動装置（HDD）（同36.2%減）、鉄鋼・同製品（同7.6%減）、化学品（同10.9%減）等。増加した品目は、機械・同部品（同1.3%増）、変圧器・同部品（同4.0%増）、洗濯機（同1.6%増）、電話機・ファックス機（同24.4%増）、テレビ受像機（同10.8%増）、プラスチック製品（同1.5%増）等。国別で見ると、米国向けが前年同月比2.5%増の約46億米ドルと最多。中国向けは9.7%減の約28億米ドル、日本向けは19.3%減の約20億米ドルだった。他は、CLMV諸国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）向け、オーストラリア向けは伸びた一方、ASEAN5カ国向け、欧州連合向け、アフリカ向け、中東向けは減少した。2024年3月の輸入額は前年同月比5.6%増の261億2,382万米ドルで、貿易収支は11億6,327万米ドルの赤字となった。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2023/6	2023/7	2023/8	2023/9	2023/10	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2	2024/3	2024/4
実質GDP成長率	%	1.8	-	-	1.4	-	-	1.7	-	-	1.5	-
消費者物価上昇率	%	0.2	0.4	0.9	0.3	-0.3	-0.4	-0.8	-1.1	-0.8	-0.5	0.2
失業率	%	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.8	-
輸出額	100万ドル	25,395	22,143	24,280	25,476	23,579	23,480	22,792	22,650	23,385	24,961	-
輸入額	100万ドル	24,528	24,121	23,920	23,384	24,411	25,879	21,819	25,408	23,939	26,124	-
経常収支	100万ドル	1,725	-1,071	467	3,154	969	-1,225	2,266	-191	1,965	1,082	-
外貨準備高	10億ドル	218.2	220.7	216.9	211.8	210.9	219.1	224.5	221.6	222.4	223.4	221.1
主要政策金利	%	2.00	2.00	2.25	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50
対ドル為替レート	バーツ	34.9	34.6	35.0	35.9	36.5	35.4	34.9	35.2	35.9	36.0	36.8

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年6月号)

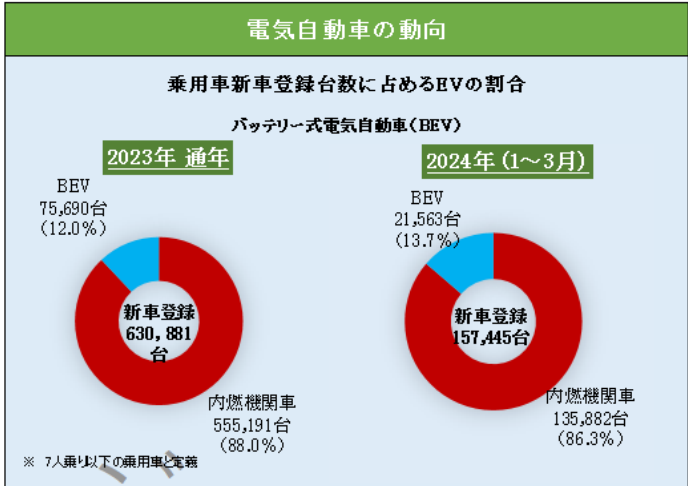
2024/5/31
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイにおける自動車産業の動向

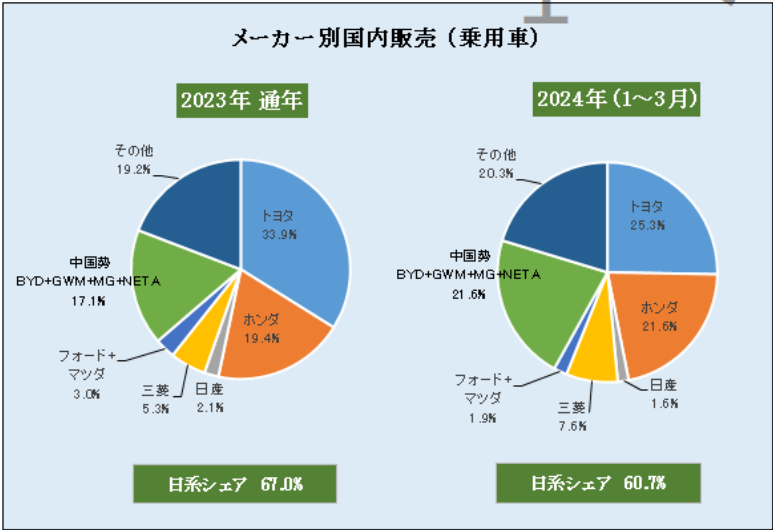
りそな銀行バンコック駐在員事務所

生産・国内販売・輸出の動向						
		2021年	2022年	2023年	2024年 (1~3月)	3月
【台数】		(台)				
四輪	生産台数	乗用車	599,844	600,839	648,803	155,049
		商用車	1,085,861	1,282,676	1,192,883	259,074
		合計	1,685,705	1,883,515	1,841,686	414,123
	国内販売台数	乗用車	251,800	265,069	292,505	65,615
		商用車	507,319	584,319	483,275	98,141
		合計	759,119	849,388	775,780	163,756
二輪	輸出台数		959,194	1,000,256	1,117,539	270,525
	生産台数		1,780,654	2,015,940	2,120,738	533,398
	国内販売台数		1,606,481	1,792,015	1,856,814	447,604
	輸出台数		965,967	1,034,840	822,608	253,728
【完成車輸出金額 (百万バート)】						
四輪		561,147	619,348	719,992	189,155	67,926
二輪		75,985	73,729	68,589	19,705	7,203

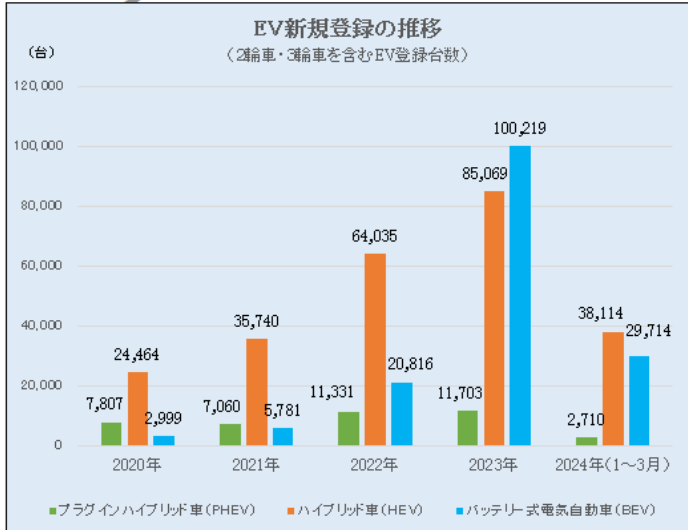
出所:タイ工業連盟(FTI)



出所:タイ運輸省陸上運送局のデータを基に作成



出所:タイ国トヨタ自動車データのデータを基に作成



出所:タイEV協会、タイ運輸省陸上運送局

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。